

## 第16回 京都府北部福祉人材確保・定着戦略会議

- 日 時 令和4年3月23日(月) 10:00～11:30
- 手 法 オンライン会議(拠点:京都府北部福祉人材確保推進事業事務局)
- 内 容

### <開会のあいさつ> 京都府健康福祉部地域福祉推進課長

- ・京都府では、第9次京都府高齢者健康福祉計画にて2021年度から2023年度の3年間で新たに7500人、そのうち北部1050人の福祉人材を確保する計画を立て、事業を推進しているところ。
- ・京都府北部地域は、府内でも特に高齢化率が高く、今後も上昇していくことが見込まれることから、介護が必要な高齢者を支える介護・福祉人材を府北部地域全体でしっかりと養成する仕組みを構築しようと、8年前から取り組み、行政、福祉・医療関係団体、職能団体等の関係機関が一体となって推進していくことを目的に、この戦略会議を開催してきているところ。
- ・舞鶴市の養成校、福知山市の現任者研修施設、宮津市の総合実習センターをしっかりと活用し、関係機関が連携しながら、実効性のある取り組みを、今後とも、地道にかつ着実に実施していきたい。
- ・新型コロナウィルス感染症の影響を受け、この間、府北部地域の福祉人材養成・確保の事業においても、様々な見直しや工夫を行い、新しい生活様式に合った事業に整えていっているところ。今後も皆様と協力し進めていきたい。
- ・本日は、府北部地域の市町、就職支援機関、福祉・医療関係団体など関係の皆様方で、それぞれの取組状況を共有し、今後の府北部地域における福祉人材確保と地域福祉を考える有意義な場としたい。

### <議題>

- 1 令和4年度 京都府介護・福祉人材確保総合事業(北部地域関連)について
- 2 京都府北部人材養成システム推進事業の推進について  
(関係団体・京都府北部福祉人材確保事業事務局等からの報告)
- 3 今後の取組について 意見交換

### <共有・意見交換 等>

#### 1 令和4年度 京都府介護・福祉人材確保総合事業(北部地域関連)について〔京都府から説明〕

- I 京都介護・福祉人材総合支援センター(FUKUJOB きょうと)の運営
- II 福祉人材育成認証制度等の活用促進
- III 京都府北部福祉人材養成システム推進事業  
北部福祉人材カフェ運営事業、北部福祉人材確保・定着事業
- IV 介護・福祉を支える多様な人材の確保  
シニア層・外国人等を含め介護・福祉を支える多様な人材の確保を推進
- V 介護福祉職場の業務効率化事業  
介護福祉職場の業務効率化に資する介護ロボット・ICTの導入経費助成
- VI その他 福祉人材養成事業  
福祉職場就職フェアの開催 等

#### 2 京都府北部人材養成システム推進事業の推進について〔関係団体から共有〕

##### (1) 令和3年度京都府北部福祉人材確保事業(2月末時点)について〔京都府から共有〕

###### ■ 北京都ジョブパーク福祉人材カフェ運営事業

新規登録者数： 417名(年間目標： 420名)  
内定者数： 367名(年間目標： 360名)  
のべ相談件数： 2,014件(年間目標： 1,300件)

- 求職者向けに世代別やテーマ別(福祉の入門・認知症サポーター等)のセミナーを各市町に出向いて実施するとともに、ハローワーク連携事業では、出張相談会やミニ就職フェア等を積極的に実施し、新規登録者を獲得。
- コロナ禍での相談対応について、昨年度に引き続き、出張相談、電話やメールにより積極的にカウンセリングを行い、2月末時点で年間目標を大幅に上回っている。
- 上記の結果、内定者数については、2月末時点で年間目標数を達成。

■ 離職者訓練（福祉即戦力人材養成科）

- ・丹後地域：修了生 17 名のうち 2 月末現在で 15 名の内定が決定（訓練期間 7/20 から 12/17）
- ・中丹地域：修了生 12 名のうち 2 月末現在で 8 名の内定が決定（訓練期間 8/31 から 1/28）
- ・内定先が決まっていない方について引き続き支援

■ 理解促進事業

- ・次世代担い手育成事業（小学校・中学校 対象）  
3 校 7 8 名が参加
- ・次世代担い手育成事業（高校生 対象）  
出前講座 及び インターンシップ を実施

■ 大学実習等誘致事業（北部福祉フィールドワーク事業）

- ・従来の「資格実習型」と「まちぐるみの体感学習型」に加え、昨年度から実施の大学(教員・学生等)と府北部の福祉施設とが、福祉施設職員がオンラインや出前講座等で提供する“福祉の学び”でつながる「ラーニングサポーター型」を効果的に組み合わせる展開。
- ・2 月末時点で 5 大学について、「ラーニングサポーター型」に 112 名・「まちぐるみの体感学習型」に 1 名、「資格実習型」に 12 名が参加した。

《きょうと介護・福祉ジョブネット 北部フィールドワーク型実習推進チーム》

- 以下のとおり会議を開催し、チームメンバーを核に、北部地域の魅力や地域資源を活かした福祉の学びのプログラムを構築することにより、大学（教員・学生等）と福祉事業所が、福祉の学びの活動を通してつながる環境を整備していくことについて検討した。また、こうした環境を、地元の小中高生に加え、地元住民等への“仕事としての福祉を見せる体験受入れ”にも活用することを企画し試行的に実践した。

- ・第 1 回会議（6 月 10 日）：フィールドワークの進め方を検討、各福祉事業所の PR ポイントの共有
- ・第 2 回会議（3 月 15 日）：受入体制や担当者の養成、オンラインでの受入を検討  
コロナ禍での各福祉事業所における受入状況の共有

- 実習等の福祉職場受け入れに関するアンケート調査〔北部福祉人材確保事業コーディネーターから共有〕
- ・府北部地域の福祉事業所にアンケート調査を実施。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止策として、実習等の受け入れを含む、外部との交流を制限する事業所が多く、府北部地域に大学生ら呼び込む「まちぐるみの体感学習型」フィールドワークの実施には、今年度は抵抗感をしめず事業所が多かった。
- ・一方で、これまでの大学との地道な関係性の継続と、プログラム内容が大学側のニーズと合致していることから、コロナ禍であっても大学側から府北部福祉フィールドワーク事業の実施の要望はあった。今後も、大学と連携しながら福祉理解・インターンシップ・フィールドワーク等の様々な受け入れを、大学のニーズに応じて調整することで、府北部地域の福祉人材の確保につなげていきたい。
- ・ほとんどの法人が、大学生等の受け入れには興味があり、今後進めていきたいと考えているが、受け入れ体制（事業所内で受入対応をする人員の調整）や受け入れ担当者の養成まで手がまわっていない状況が分かった。事業所の具体的な人材の確保につながるような受け入れ事業に対する期待感は大い。
- ・府北部地域の法人の中にも、オンラインでの福祉職場体験の受け入れを、ライブ配信機能等も活用しながら効果的に実施できているところもあり、そうした法人からやり方を学んでいくことが効果的。

- 高校教員対象進路指導セミナー〔北部福祉人材確保事業コーディネーターから共有〕

- ・高校生の進路指導や職業選択に大きな影響力をもつ高校教員向けに、「教員のための“介護・福祉”進路指導セミナー」を実施。

〔主催〕きょうと介護・福祉ジョブネット「北部フィールドワーク型実習推進チーム」「仕事理解促進チーム」【合同企画】  
〔対象者〕進路指導担当教員（就職・進学指導）、福祉系コースの教員、家庭科の教員、その他業務で就職・進学相談に携わる教員

日時：令和 3 年 9 月 28 日（火）15：30～16：30

手法：オンライン（オンラインビデオ会議システム Zoom を活用）

内容：オンラインセミナーと福祉職場オンライン見学会

〔セミナー〕「SDGs×福祉、ICT×福祉」新しいフクシの見方～福祉事業の将来像 大学での福祉の学び方～  
〔福祉職場オンライン見学会〕(福)大樹会「やすらぎ苑」ICT を活用したこれからの新しいカタチ

## (2) 北部福祉人材養成システムの進捗(2月末時点)について〔関係団体から共有〕

《福知山民間社会福祉施設連絡協議会》

- ・資格取得研修(介護福祉士実務者研修 54名受講等)
- ・各階層の職員向け研修、職場リーダー養成研修、防災研修等

《舞鶴YMCA国際福祉専門学校》

- ・卒業生は2020年度生を加えて100名を超える人材がそれぞれの施設で活躍しているところ。
- ・令和4年度は15名程度が入学見込み(2月末時点)。

《宮津総合実習センター》

- ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、法人で定めた実習ガイドラインに基づき、可能な範囲で対面での受け入れを実施した。
- ・WEBを活用して福祉現場のリアルを伝える1対1の面談(WEBトーク)やリモート見学ツアー、これからの福祉を学生同士で考えるオンラインワークショップ、オンラインセミナー(THF福祉セミナー)等を企画し、実施した。

### 3 今後の取組について 意見交換

〈舞鶴市〉

- ・舞鶴市では介護人材の確保が必要な状況である。舞鶴YMCA国際福祉専門学校とは、養成校の学生・福祉施設職員の確保について、特にこの1年は幾度となく意見交換を行い、積極的に検討してきた。
- ・北部の高校生が介護、福祉の仕事に魅力感じて進学、就職をしてもらえるよう推進していくことが重要と考えている。
- ・高校訪問をしている中で、介護の仕事・福祉分野の仕事を、多くの学生に就職先として選択いただけるような状況には、まだまだ至っていないのが実情であり、行政としても、福祉の魅力を発信していくことの必要性を感じる。ひとつの市町が単独で動いていってもなかなか難しいと感じており、府北部地域7市町の行政職員が集まって意見交換、共通認識をもつ場ができたかと考えている。

〈宮津市〉

- ・府北部地域の7市町で、地元市町での個別具体的な取り組みを共有できる場があると参考になる。
- ・宮津市では、令和4年度からの新たな取組として、市営住宅を若者向けにリノベーションしてエッセンシャルワーカー向けの入所枠を新たに設ける仕組みを検討しており、福祉の職場で働いていただきやすい環境を整えていくことで福祉人材確保を推進していく予定である。こうした市営住宅もうまく活用し、北部福祉フィールドワークに参画いただいている学生さんに、一時的に宿泊いただけるような戦略も検討しており、今後取り組んでいきたい。

〈綾部市〉

- ・地元市町で情報共有や意見交換ができる場があればかねてより思っていた。市だけでは対応できない課題であり、こうした場で、状況を共有して協働で取り組んでいきたい。
- ・例えば、次世代を担う児童、生徒に介護の仕事への理解や関心の促進をはかることは、非常に重要な事業と考えており、引き続き、教育機関や福祉事業所と連携して積極的に実施していきたい。

〈与謝野町〉

- ・与謝野町は小さい町であり、ひとつの町では、なかなか何かを動かしていくことは難しい。そういった意味でも意見交換の場は活用してもらいたい。
- ・小・中学生向けの理解促進事業について、中学生向けに福祉の仕事の魅力が伝えられる場が増えたらと考えている。教育委員会等で町内の企業等が高校に向かい、高校生に仕事のココロを伝えるという場はあるが、なかなかそれ以上のことを実施するのは難しいので、北部福祉人材確保事業として強化してもらえるとありがたい。

〈北部福祉人材確保事業コーディネーター〉

- ・大学実習等誘致事業(北部福祉フィールドワーク事業)は、複数の法人が連携して、“まち全体での福祉”を知ってもらおうという、網羅的に学べる受け入れプログラムである点が、大学側のニーズに合致しており、コロナ禍で府北部地域等、大学から遠い地域での受け入れの希望は減っている中でも、府北部地域に行っても、そうした学びをさせたいという大学は多い。特に自治体参加のプログラムは他ではなかなか体験できないため、大学側は興味をもっている。
- ・今後も、府北部地域での大学生等の受け入れにあたっては、地元自治体の協力を得て、学生らを一時的に宿泊させていただけるといったような仕組みを戦略的に整えていけたら効果的だと考えている。
- ・受け入れにあっても、例えば、複数の福祉事業所や関係機関が連携することで、受け入れ先の変更や宿泊先の変更に対応可能な体制を整える等により、コロナ禍であっても、急な受け入れ中止をすることなく事業を運営していく方法を検討できればと考えている。加えて、市町の移住促進事業とコラボする等の工夫により、より多くの方に府北部地域の福祉の現場に来ていただける仕組みを模索していけたらと思う。地元自治体の協力を得ながら進めていきたい。

#### 〈舞鶴 YMCA 国際福祉専門学校〉

- ・介護福祉士の養成と確保の必要性について、府全体として発信していく必要があると思う。
- ・介護福祉士または社会福祉士として業務に従事しようとする者に対する修学資金貸付事業については、一定期間、府内の社会福祉施設等で介護福祉士等として業務に従事した場合、返還免除となるが、ここ数年は入校者の利用率が減ってきている。最近では、継続して勤務すること自体に自信のない方が多いというのが、要因のひとつのようだ。
- ・介護現場におけるテクノロジーの活用を体験できる授業を後期から取り入れている。見守り機器導入等の活用事例とその具体的方法を学んでいただける授業を展開していきたいと考えている。そういう体験をつんだ人材を現場に送り出すことを、学校のひとつの特徴としていきたい。
- ・どうすれば、地域の介護福祉士養成につなげることができるか、舞鶴市とも協議しながら進めていきたい。

#### 〈一般社団法人京都府介護福祉士会〉

- ・北部福祉人材確保事業という枠組みの中では、地域の潜在的な働き手に福祉職場に入ってきてもらえるよう、間口を広げて介護の魅力を発信していく必要があると考えている。京都府介護福祉士会ではYouTube 動画を作成する等、SNS を活用した発信にも取り組んでいる。
- ・介護の仕事に入ってきた方について、介護福祉士になられた後の、現場職員の介護の質を向上させる取組にも会としても取り組んでいる。介護福祉士取得後の「ファーストステップ研修」や、認定介護福祉士という上位の資格研修を実施している。
- ・入職時はその仕事を続ける自信がなくても、受け入れ事業所側が“人材を育てる意識”をもち、“やめさせない”ための取組や、大切に育てるといった人材育成体制が整っているかどうかで、人材の定着につながると思う。
- ・“魅力発信”・“介護の質の向上”・“長く続けてもらえるよう大切に育てる”といった3つをセットに考えて、進めていくことが重要だと考えており、府北部地域の人材確保の取組に会としても協力をしていきたい。

#### 〈京都府立久美浜高等学校〉

- ・学生の時から福祉教育は非常に重要になってくると考えている。本校では「福祉」を全面に打ち出してやってきた。今年度、久美浜高等学校総合学科福祉系列の最後の卒業生を送り出し、来年度からはすべて丹後緑風高等学校の生徒となる。丹後緑風高等学校「久美浜学舎・みらいクリエイティブ科」では、2年次に介護職員初任者研修が修了できる選択科目群を置いており、「網野学舎・普通科」では3年次に「福祉入門」という選択科目を置き、「久美浜学舎」の福祉科教員が遠隔教育システムを活用しながら教えることとしている。
- ・他にも、これまで中学校から「福祉学習」への協力依頼を受けて実施してきた、本校の高校生らによる出前授業を、オンラインを活用して実施することで、本校の生徒の学びにも繋げることができた。
- ・“地元で若者にどうやって地域に定着してもらうか・大学等に進学してからどうやって戻って来てもらうか”については、福祉に限らず、この地域の課題であり、関係機関と連携しながら進めているが、なかなか難しい部分もある。今後も戦略を練る必要があると考えている。

#### 〈同志社大学 野村教授〉

- 学生等若者に対する福祉理解促進のアプローチについては、非常に効果的だと考えている。
- ・本学でも社会福祉士の新カリキュラムがはじまり、この1月から3月までの間に、1回生97名を現場実習に8日間お世話になっている。新型コロナウイルス感染症の影響で20名はオンラインの代替実習になるのだが、約70名の学生が現場実習をお世話になることになっている。
- ・本学では、これまでから1～2回生の学生の体験受入れを府北部福祉フィールドワーク事業でお世話になっているが、受入れ先の福祉施設で引き続きアルバイトを行う等、学生らが主体的に、体験や実習等受入れの後も福祉施設とつながり続けるという現象がおこっている。
- ・こうした、大学生生活のできるだけ早い段階で、福祉の実践に触れるといった経験が、「福祉を学びたい」や「福祉をもっと知りたい」ということに確実に繋がっているということ、本学の学科教員らはひしひしと感じているところだ。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で解雇・離職を余儀なくされた方を含め、どこに働きたい人がいるのかを把握し、そういった方を福祉人材として、いかに確保していくかという視点が重要になってくると考えている。
- ・例えば、人口が少ない地域の離職された方々が、都心部に移動して働き口を探しているということが、調査等から読み取れる。ここで、府北部地域で離職を余儀なくされた方々を、都心部に移動させることなく、いかに府北部地域の福祉人材として確保していけるかといった視点が重要になってくると思う。
- ・今後の福祉人材確保には様々な工夫や手法が必要と考えており、様々な施策のうち方が考えられると思う。府北部地域の福祉人材確保について、府全体で取り組んでやっていく際の参考にしていただけたらと思い、長野県の事例を共有させていただく。長野県におけるコロナ対策事業「かりぐらしスタートプロジェクト（住居支援付き就労支援事業）」では、生活困窮者支援を“仕事”と“住まい”と“それを支える相談者”の3点セットで進めていくというのを徹底されている。ハローワークとの連携も重視されている。

以上。